

「地域歩き」と「助け合い体験ゲーム」による ニーズの掘り起こし

住民グループと生活支援コーディネーターが、協働しながら、地域の課題を把握・整理しました。自分達が住んでいる地域を歩き、「5年先、10年先、困りそうなこと」について意見を出し、グループ間で共有しました。

「地域歩き」と「助け合い体験ゲーム」によるニーズの掘り起こし

～●●ワイワイくらぶとの協働～

自分達が住んでいる地域を歩き、5年先、10年先、自分が困りそうなことについて意見を出し、メンバー間で共有しました。地域課題を基にカードを作成し、どのような困りごとなのかを視覚化し、カテゴリに分けました。それらの課題をさらに掘り下げるために、地域のサロンに出向き、助け合い体験ゲームを実施することで、課題の発見・整理に努めました。

1. 田原本町の特徴

人口：31,962人
高齢化率：30.8%
(令和元年7月1日現在)
面積 20.09 km²
地域の特徴

- ・奈良盆地の中央に位置
- ・豊かな田園風景
- ・夏は暑く、冬は寒い
- ・典型的な盆地型気候
- ・周辺の山地に比べて雨が少ない



2. 『●●ワイワイくらぶ』結成の流れ

H30.7.12	・平成30年度に、さわやか福祉財団の土屋幸巳先生をお招きし、地域づくりフォーラムを開催し、278名が参加する。
H30.8.11	・フォーラム参加者を対象に、住民型ワークショップ「暮らしいきいき助け合い講座」を実施する(計3回)。
H30.11.21	・校区単位で、住民組織「●●ワイワイくらぶ」が結成する。目指すべき地域像として、「人生の最後まで安心して住み慣れた●●で暮らしていくために」と決まる。

3. 方法

地域の課題を把握するために、以下の2つの方法を用いた。

①地域歩き

日時：平成31年2月27日・3月13日

場所：A自治会、B自治会、C自治会

課題：「80歳の私」を想像し、●●地域に住んでいたら困りそうなことはなにかを見つけてください。

備考：福祉体験の用具を利用することで、80歳の自分自身をイメージしやすくなるように工夫した。



②助け合い体験ゲーム

日時：令和元年5月21日

対象：Aサロン21名(男性1名・女性20名)

場所：A公民館

内容：さわやか福祉財団の助け合い体験ゲームを実施する。

進行および記録：グループ内の進行は、●●ワイワイくらぶメンバーが実施する。記録は、長寿介護課、地域包括支援センター、社会福祉協議会の職員が担当した。



4. 結果

①地域あるき(1部抜粋)

エリア	地域課題	必要な助け合い
南8	道が狭いのに交通量が多く、外出しづらい。	外出時の見守り・介助
西4	物騒な雰囲気があり、歩くのが怖い。 (空き地が多く、管理されていない)。	空き地の整備
北5	雨の日はサロンに参加しにくい。	雨の日の外出見守り・介助
南1	耳の不自由な人は、横断歩道を渡れない。	横断歩道の移動介助
南7	ATMが遠いので、お金を出金できない。	お金の出金
北3	買物できる場所が近くにない。	買物
南10	水路にゴミが流れており、子供の教育に悪い。	近所のゴミ拾い
南2	道が舗装されていないので、車椅子での移動が困難である。	車椅子の介助
南3	柵がなく、水路に落ちた子供がいる。	子どもの見守り

②助け合い体験ゲーム(1部抜粋)

a. 選ばれたカード

NO	内容	G=グループ			合計
		G1	G2	G3	
45	通院・買い物などの送迎	2	3	1	6
5	食事づくり・片付け・買い物	2	3		5
13	入浴介助	3	1		4
1	ゴミ出し	3			3
12	ついででの買い物		2	1	3
16	草むしり・樹木や花壇の手入れ	2		1	3
18	話し相手	2	1		3
20	役所関係書類の説明やアドバイス		2	1	3
50	仕事・介護・健康などでの悩み相談	2		1	3
3	季節の衣替え	1	1		2
6	掃除	1	1	1	2
8	電化製品のアドバイス		2		2
11	包丁研ぎ	1		1	2
24	家具などの重い物の移動		1	1	2

b. 残ったカード

NO	内容	G=グループ			合計
		G1	G2	G3	
13	入浴介助	1	1		2
51	認知症者の病院のつきそい	1		1	2
45	通院・買い物などの送迎		1		1
5	食事づくり・片付け・買い物		1		1
1	ゴミ出し	1			1
18	話し相手		1		1
20	役所関係書類の説明やアドバイス			1	1
8	電化製品のアドバイス	1			1
24	家具などの重い物の移動	1			1
60	食事の配達		1		1
2	洗濯		1		1
23	部屋の模様替えの手伝い		1		1
34	簡単な外国語会話	1			1
72	災害時の避難介助	1			1

5. 今後の展開

掘り起こしたニーズを、他の住民と共有するために、皆でチラシを作成し、助け合いの大切さを訴えていく予定である。